今早出川～曲り沢･割岩沢

2009年9月19(土)～22日(火)

メンバー：L奥平、三井、釣、白土、神戸�记、他1名

ガンガラシバナとジッピという奇妙な名前を持つ風景写真を初めて目にしたきっかけは「日本の秘境」という雑誌からだった。前にいた山岳会は丹沢以外の沢には、ほとんど行かない所だったので、沢のルート図の本やネットで沢の写真や記録を見て、行ってみたい沢はたくさんあったけれど、毎日眺めるだけだった。早出川というと難しくて私には無理なのではないかと思っていたけれど、上流の今早出川はそんなに難しくないと聞いて行ってみたくなった。

9月19(土) 晴れ

金曜の夜に室谷のバス停で前泊して、翌日、一の俣橋に車を停めて準備をしているとベンツのワゴンで、やはり今早出に入るという、ぶなの会の6人パーティと会う。ベンツはレンタカーだと言っていた。一の俣橋からしばらく沢の右岸の踏み跡を辿り一の俣沢に入る。天気も良く小さな沢なので順調に進んでいく。途中、大きな滝を左側から巻いて再び沢に戻る。その先の二俣で休憩し右の沢に入って行くと水流は細くなり、一の俣乗越へ出る。アカバ沢を下って行くと、しばらくして今早出川の出合に着いた。休憩をして河原を歩いて行くと突然大きな淵を持った滝が出てくる。去年、ガンガラシバナまで行った奥平さんと釣さんはこんな淵と滝はなかったと言う。遡行図に載っている横滝なのだろうか。滝は2段になっていて中段の右側は横穴があいたようになっている印象的な滝。両岸は壁になっていて泳ぐしかないのかと思っていると、三井さんが左岸の壁をスイスイとトラバースしていってしまう。確かにわずかな足場はあるけれど、下は深くて底の見えない淵なのでかなり怖い。落ちても大丈夫なように私だけライフジャケットをつけていく事にする。滝の下は立てる位の浅瀬がわずかにあり、ロープを出してもらって一段目を登って、2段目は水流を渡って左側を登る。その後はまた河原となり泊まるのに良さそうな広い場所があり行動終了となるが、焚き木は少なめだった。ブナの会の人達は少し後からやって来て、木も少ないし、もう少し先まで行くという。

9月20日(日) 晴れ

河原は少しずつ狭くなり山肌が近くなる頃、大きな岸壁が目の前に現れた。そのスケールの大きさに圧倒され、こんな所が本当に登れるのだろうかと不安になる。ブナの会の人達も写真を撮ったりしている。取り付きまで近づきルートを検討する。上手な人だったらルートはたくさんありそうだ。水流の左側を登る事になったが、水量は少なく滝という感じはしない。ブナの会も同じルートを行くようで先に登り始めた。後ろを振り返ると背後にもスラブの岸壁が広がり見たことのない景色をただぼーっと眺めてしまう。

後から3人パーティが追い付いて、中島さんが越後沢で会った事がある人達だというが、私もネットの沢のホームページでたまに見る、いつも素足に短パンの人だった。この人達は今早出と割岩沢の出合に昨日泊まっていて一日でそこまで戻るというとてもハードな行程だ。帰って来てその人のホームページの記録を見ると、テン場に着いたのは 20 時過ぎだったそうだ。1 ピッチずつロープを固定し、先に登った人が次のピッチを登り始めるようにして、ロープを 2 本使ってどんどん登って行った。手掛かりやスタンスはしっかりあり傾斜もきつくなく登り安いが、岩が脆く小さな落石が結構ある。去年、奥平さん達が来た時は他には誰も人がいなかったというように普段だったら人は少ないはずなのに、何年かに一度の秋の 5 連休で秘境の大岩壁に総勢 15 人が取り付いていて、ゲレンデの岩場のようになってしまった。最後はブッシュに入り、左にトラバースすると再び沢床に戻る。本流をつめて行くと順調に稜線に出た。踏み跡のある藪をこいで曲り沢の手前から早めに下って行った。しばらくすると曲り沢に出て小滝を下って行くと、下の見えない切れ落ちた滝に出てしまった。とりあえず三井さんが懸垂で一段降りて様子を見るが、さらに滝は続いてる。全員一段降りて、その先は三井さんが一人で懸垂で降りてさらに様子を見ることになった。残置の痕跡が全くなく、人が下降していない沢なのではないかという。ここでかなり時間がかかってしまい、とりあえずは大丈夫という事で全員で懸垂をした先でビバークする事になった。上から滝がまったく見えず 50m近い懸垂も久しぶりだったのでかなり緊張する。少し降りてみて滝の全貌が見えると異様な滝の様子に降りられずに止まってしまい、本当にここを降りるのかと下にいる三井さん達に大声で聞いてしまった。凹状の滝で上から見ると暗い流心に吸い込まれそうな感覚になりかなり怖い。でも三井さんが下でロープを引っ張って誘導してくれたので、なんとか降りられた。泊まりの沢に行き始めて 1 年目の私には驚きの連続の一日だった。ビバーク地は狭いけれど、木も横になれる場所もあり快適だった。ただ風の通り道なので、シュラフが無い人は寒かったようだ。でも切り立った壁の先には広い空間がぽっかりと空いていて、明日はどうなるんだろうと思いながら眠りについた。

9 月 21 日(月)

朝から切れ落ちた滝を覗いてみるが、先が見えず懸垂してもロープが届きそうかわからず、支点にできそうな木もまったくない。左岸をトラバースして高巻きながら下る事になった。斜面はそんなに急ではなく、ロープをずっと使って三井さんと中島さんがどんどん下っていく。経験豊富な人達と一緒だと、判断も的確で、ルートも下りやすい所を探してくれたりととても安心感がある。しばらくすると斜度の緩くなった本流が見えて、あそこまで降りられれば、なんとかなりそうだとホッとする。沢状のルンゼに入り小滝を下って行くと曲り沢の本流にでられた。気温もだいぶ上がりジッピが楽しみになってきた。狭い小さな廊下がいくつか続き首まで浸り、ロープを出して引っ張ってもらったりしながら、どんどん下って行く。10m位の滝の懸垂も 2 回ほどあり、割岩沢の出合に着いた。この先がすぐジッピなので、ネオプレーンの服に着替えてライフジャケットも準備した。足のつかないゴルジュが何ヶ所かあり、ジッピの入口に着いた。

奥平さんが先頭でロープをつけて泳いでいく。しばらくすると着いたよという声が聞こえて、ロープを固定して 2 番目、3 番目とどんどん泳いで行く。私は三井さんにつかまって流れて行くだけだった。途中で上を見上げると狭い壁の間から細く空が見える。こんな景色が見られるなんて、沢登りをやってみて本当に良かったなと思った。今早出の出合まで行かず、手前の河原で早めに泊まる事になった。

9 月 22 日(火)

深い淵はまだいくつか続き、両岸が壁になった釜をもった滝には飛び込んだ。

そんなに高さはなかったけれど、釜に飛び込むのは初めてで、なかなか踏み出せない。ライフジャケットがあったので沈む事もなく以外とおもしろかったけれど、なかったら潜ってしまって怖そうだ。今早出の出合まで順調にくだり、その先は胸までは浸かったりするが泳ぐ所はなく、6m位の滝を登るのに 1 回ロープを出した。アカバ沢の出合は少しわかりにくいけれど、行きに白土さんが目印に石を積んでいたので大丈夫だった。アカバ沢に入ってすぐ沢を離れ、左岸の踏み跡に入って行く道がわかりにくかった。一の俣乗越し付近で行きとは違う踏み跡に出てしま

い、行きよりは１本手前の枝沢を下る事になった。帰りにインター近くの「次男坊」といううどん屋さんで食事をしていたら、御神楽沢に行っていた、山本さんと平本さんにばったり会ってびっくりした。

コースタイム：
9/19(土)
8:00 一の俣橋→10:15 尾根乗越し→10:45 今早出出合→13:40 大プール→14:05 テン場
9/20(日)
6：00 出発→6：40 ガンガラシバナ右→12：55 奥の二俣→13：50 稜線上→16：10 50m凹状滝、懸垂下降→16:50 テン場
9/21(月)
6：40 滝中テン場出発→7：00 右岸高巻き→9：20 ルンゼを下降→10：00 曲り沢に戻る→10：20 4m滝懸垂(ハーケン２枚うちこみ)→11：50 12m滝空中懸垂→12：20 15m滝懸垂(下が淵) →12：50 割岩沢出合→14:05 ジッピ→15:10 テン場
9/22(火)
6:50 出発→8:40 ユウ沢出合→9:50 今早出出合→11:25 アカバ沢出合

地形図：室谷、駒形山